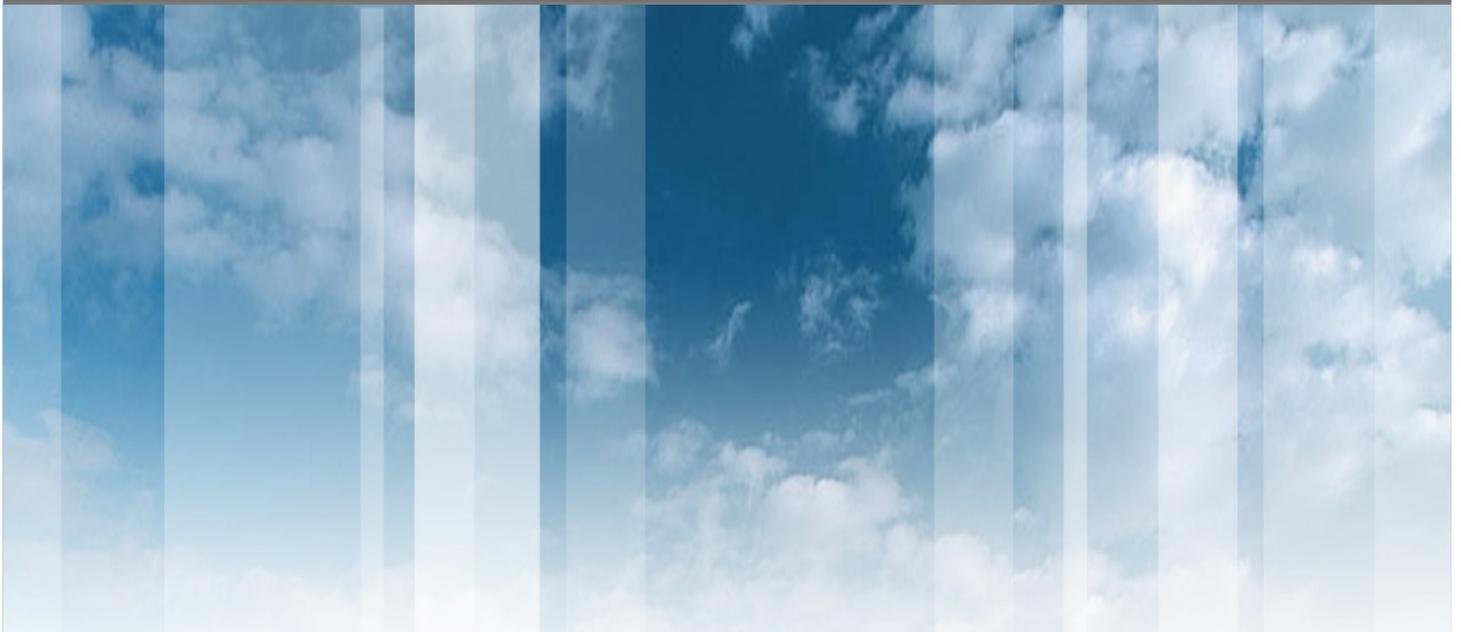




RESCUE

基幹システムの「見える化」 その先に…



SoftwareGeneration

情報システム部門の悩みは大きい



企業ITにおいては、長年の運用経過により、システムの肥大化、複雑化の一途を辿っております。

こうしたブラックボックスとなりつつある基幹システムの運用・保守には、多大なコストが必要となり、更には、高いシステム習熟度を備えた要員でしか開発保守が行なえない状況(属人化)となっております。

一方、企業をとりまく環境では、グローバル化、競争激化といった加速度的な環境変化に対応を迫られ、

ITへの投資については、各企業ともビジネスに貢献する戦略的なIT投資への方向転換が進み、現行システムの運用・保守については、

ITコストを抑制せざるを得ない状況と推察いたします。

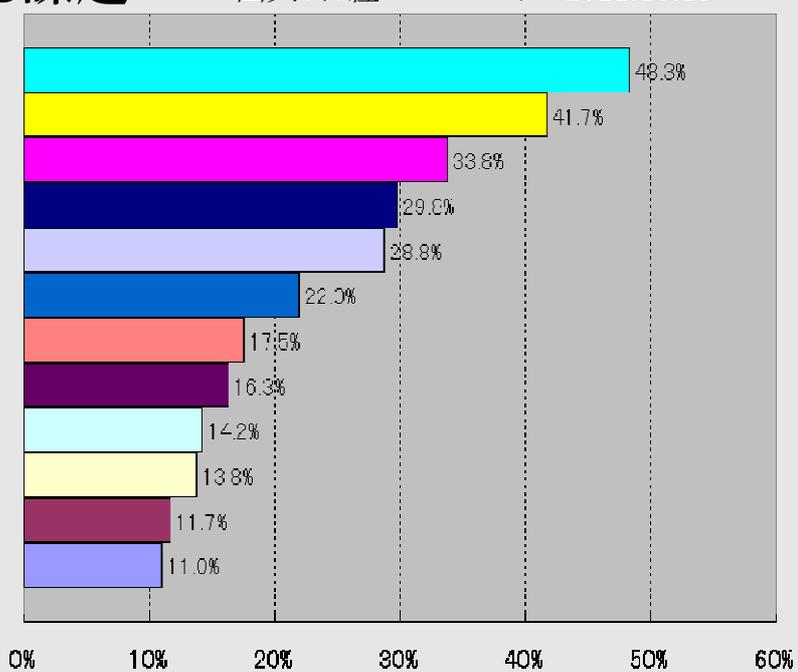
こうした状況下におきましても、基幹システムは日々動き続け、

現行システムの運用・保守無くしては、企業におけるコアビジネスそのものの存亡にかかわる事となります。

システム保守における課題

出典：日経コンピュータ 2011.10.13

- 仕様がドキュメント化/最新化されていない
- ハード/ソフトベンダーの都合でシステム変更
- システム保守にコストがかなり過ぎている
- 担当者が多忙で必要最低限の保守しかできない
- ICT資産の現状が見える化できてない
- ノウハウや技術が引き継がれず、作業者がいない
- 標準化がなく、システム単体異なる保守が必要
- モジュール化ができておらず、保守作業の負担が大きい
- 今後の適切なシステム保守の在り方が分からない
- システム担当者自身が変化に消極的
- 使用頻度が低い/重視しているシステムや機能がある
- ICTベンダーに適切なソリューションがない



具体的な対応策 それはリバースツールの有効活用



企業ITで抱える様々な課題は、もはや塩漬けが許される状況ではなく、具体的な施策が必要となります。
限られた要員・コストにて、現行システムの運用・保守を正確且つ効率的に実施するには、リバースツール活用が有効的手段と考えます。
リバースツールの活用は、日々の運用・保守において、確実に効果を発揮いたします。
また、現行システムの運用・保守に対する導入効果は勿論の事、その他導入効果としては、
現行システム運用・保守を、リバースツールの活用により若手SEにシフトすることが可能となり、
キーマン(システム習熟度の高い上級SE)をマイグレーション等、システム刷新プロジェクトや、IT企画等、上流工程への投入が可能となります。
更に、現行システムの構成情報をリポジトリに保有する事でAs-Is分析の早期対応、To-Be(次期システム構想)への早期移行、マイグレーション手法における選択肢の拡張が可能となります。
最終的にその導入効果は、企業全体に波及いたします。

運用・保守フェーズ

マイグレーションフェーズ

現行システムの「見える化」

- 運用・保守プロセスの標準化
- 効率的なナレッジトランスファー

- AS-IS分析の工数低減
- システム構成情報をリポジトリに保有

- ✓ 運用・保守コストの低減
- ✓ システム保守属人性の排除

- ✓ 戦略的ITニーズへの早期呼応
- ✓ マイグレーション選択肢の拡張

リバースツール導入におけるベストな選択 それは「RESCUE」です



1998年、最新のリバースエンジニアリング技術を駆使し、RESCUEは誕生いたしました。
導入実績と致しましては、延べ98社(2014年4月現在)、
基幹システムの「見える化」、運用・保守の効率化を目的とし、長きにわたり、
多くのメインフレームユーザにご利用いただいております。
RESCUEは、長年の経験・実績に裏打ちされた「ソース解析技法」と
ユーザフレンドリーなUIを持つ、リバースツールであります。
製品の信頼性につきましては、多くのユーザ導入実績でも実証されておりますが、
H/Wベンダー、大手Sierにて多岐にわたる事前検収を経た結果、
AMOプロジェクト等への製品採用されている点も、信頼性の証となります。
企業ITにおける運用・保守ご担当者のニーズを的確にとらえ、
製品にフィードする事で、RESCUEはユーザとともに日々進化を遂げております。

RESCUE リリース年表

1998年	RESCUE Ver.1.0
⋮	
2004年	RESCUE Ver.3.4
2005年	RESCUE Ver.3.5
2006年	RESCUE Ver.3.6
2008年	RESCUE Ver.3.7
2010年	RESCUE Ver.3.8
2013年	RESCUE Ver.3.9

RESCUEが基幹システムを「見える化」します



RESCUEは、メインフレーム各種リソース(プログラム、JCL、その他定義体)におけるデータやリソース間の関係性にフォーカスしたリバースエンジニアリングツールであります。
 リバースの対象となるリソースを構文解析し、入出力定義やリソースの相関関係をメタデータ化、リポジトリに収録する事で、ソースコードといった実装技法に表現された様々な設計・構成情報を、瞬時に閲覧する事が可能となります。
 現行システムの「ブラックボックス化」を物理・論理設計情報という形で「見える化」します。

RESCUE

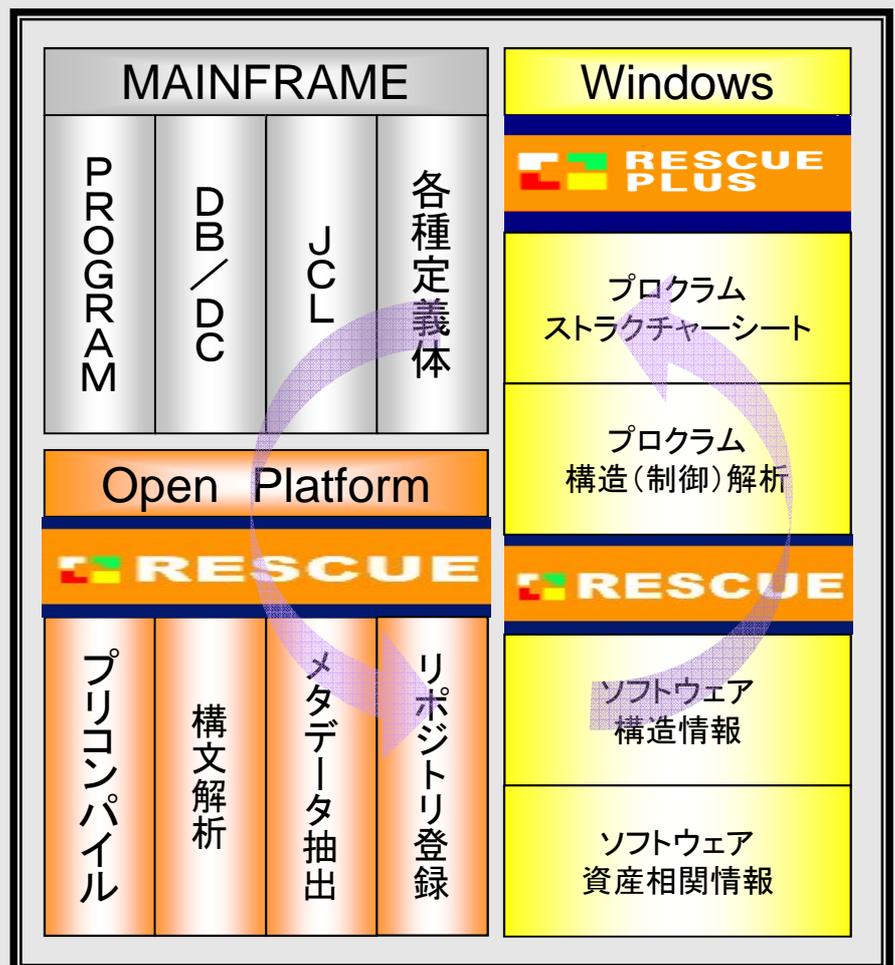
◆物理設計情報

- 資産一覧
- 資産相関
- 資産別物理構成
- 資産棚卸
- 補完資料

RESCUE PLUS

◆論理設計情報

- ストラクチャーシート



RESCUEが企業ITで抱える 様々なIT課題を解決します



これまで多くの導入ユーザで抱えるIT課題を
RESCUEが解決いたしました。

現行システムの運用・保守プロセスを
「RESCUE」を軸に、工程化、標準化を行なう事で・・・

システム習熟度に依存しない
システム運用・保守
が可能

- ✓ 属人性の緩和
- ✓ 要員ローテーションの実現

IT要員間における調査分析において
調査精度の向上、
ならびに平準化が可能

- ✓ IT基盤の品質向上
- ✓ 企業ITの信頼性向上

現行システムの運用・保守工程
において、開発工数の削減
が可能

- ✓ 企業ITニーズへの即応
- ✓ バックログ対応工数の捻出

情報システム部門における
全体の開発コストの低減
が可能

- ✓ コスト削減要請への呼応
- ✓ 戦略的IT投資への転換実現

具体的な解決事例

某製造業様

- ▶ メンテナンス工数の削減
- ▶ トラブル件数の削減
- ▶ 経験や勘に依存しない運用。維持体制の確立
- ▶ 会社・部門の施策実施判断のスピードUP

etc

某流通業様

- ▶ 調査レスポンスの短縮
- ▶ 生産性・品質向上
- ▶ 個人依存型からチーム分散型作業への転換
- ▶ 作業の平易化・正確化・効率化

etc

某金融様

- ▶ メンテナンス作業の負荷分散
- ▶ 個人依存からの脱却
- ▶ 運用ノウハウの継承による円滑な人事ローテーションが可能

etc

RESCUEがAs-Isを「見える化」し To-Be(マイグレーション)の道筋をつけます



RESCUEの導入効果は、現行システムの運用・保守における導入効果にとどまるものではなく、ビジネス現場から求められているITの刷新(マイグレーション)において、現状のAs-Is分析やFit&Gap分析といった局面で、その効果は発揮されます。

RESCUEが、企業IT喫緊の課題である「レガシーマイグレーション」にTo-Beの道筋をつけます。



またソフトウェアジェネレーションでは、RESCUEをベースとした全てのシステム刷新に有効な「再構築支援システム」を開発しております。昨今では、第三次マイグレーションの到来とも言われ、アプリケーション自動生成ツールにつきましても、IT業界内にて関心が高まりつつあります。ソフトウェアジェネレーションでは、数多くのマイグレーション実績をもった弊社ビジネスパートナーと協同し、「再構築リポジトリ」を介したアプリケーション自動生成ツールへの自動連携を目的とした支援システム「MACS」をリリースいたしました。

製品詳細については、下記メールアドレスにて
お問い合わせ下さい。

- 製品資料送付
- 製品説明のご要望
- その他ご質問

E-Mail: sg-eigyo@soft-g.jp

SoftwareGeneration

<http://www.soft-g.jp>

ソフトウェアジェネレーション株式会社

Software Generation co., Ltd

東京都千代田区三崎町2丁目6-2 ダイナミックビル3F

Tel : 03-3234-5638

Fax : 03-3234-6794